

夢窓幼稚園通信第35号

2017年 8月 30日

園庭の遊具の下に、上の枝から落ちたどんぐりたちがいくつも芽を出しています。私たちが見ると愛らしく健気ですが…、でも大きくなろうとしている。それらの芽は、残念ながら立派な木になるのは難しく、いつの間にか姿を消していくことになるでしょう。何日か続けて眺めていたのですが、2学期になりバタバタしたらなかなか見にこれないかもしれない…と、夏休みのさいごの今日、19の芽に名前をつけて呼ばせてもらいました。

ちよっと大きい「あにぎ」、その横の小さな「ちよろり」
奥の方にひとりいる「かたすみ」、石の近くの「いしちか」
アリの巣穴の近くの「ありともだち」、ひとり静かな「おすまし」
ちよっと風に揺れだした「かせそよぎ」……

まあ、こんな具合です。

自然災害や問題がなかなか解決されない環境、戦争や紛争、国家間の緊張、金融・経済界・物質中心主義からの個の精神の自由に対する抑圧……

世の中の矛盾や生きづらさを前にして、あらためて「いのち」あふれる文化を園庭の片隅の小さな時間からでも、守り作っていきたいと思いました。

ままごとを「なかよし」の3歳の女の子が二人と4歳の男の子がたのしんでいます。

おいしいケーキも出来あがったようです。落ちていたかわいい花も添えられています。小さな自転車で、一人が家に戻ってきました。

「ただいまー」 「おかえりー」
「いまちよっと ～するところなの！」
スウィート マイ ホームです。

ごっこあそびとしての「ままごと」は、その内容も面白いのですが、それぞれの子どもたちの内側で、その都度あふれて出してくるのであろう感情のやりとりが「心の風景」として背後に漂っていて、見ていて「久間讀歌」の場面に立ち合わせてもらっているように感じるので。

秋がやってきました。ゆめや願い…の、いくらかは、秋の静けさの中で形あるものになろうとしています。

私たちの内に貯えられた夏の力をもってつむぎ出す、これからの出来事や営みが、自然の稔りと共に、よろこばしいものになることを祈りたいと思います。

2学期もどうぞ よろしく 願います。

園長 升光 泰雄